



はくろ（白鷺）の散歩Ⅵ

令和6年9月20日
～校長室の窓から～ 令和6年度 No.10
神奈川県立平塚中等教育学校
校長 松本 靖史

【地震に備えて シェイクアウト！！】

9月1日は防災の日です。そこで本校では、令和6年8月29日（木）に、大規模地震に備えシェイクアウトを中心とした避難訓練を実施しました。今回の訓練は、防災担当者を中心に、訓練のための訓練は行わない、リアルな訓練ということで、①生徒には訓練開始時刻を教えない、②本震の5分後に余震が発生するという想定で訓練を行いました。また、余震の後に生徒の状況確認はスピードよりも正確性を求めて訓練を行いました。今年は、正月の能登半島地震、8月の日向灘の地震と大きな地震が続いているためか、生徒・教員ともに真剣に訓練に取り組み、当初の目的を達成することができました。



今年、正月の能登半島地震、8月の日向灘の地震と大きな地震が続いているためか、生徒・教員ともに真剣に訓練に取り組み、当初の目的を達成することができました。

【4・5年生大学出張授業】

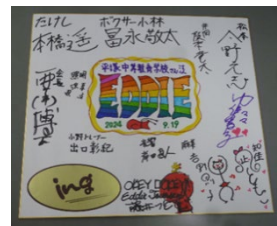
令和6年9月12日（木）の5校時から7校時にかけて、4・5年次を対象に大学出張授業を開催しました。この出張授業は、「大学教員による講義を通して、大学恐育への興味、関心の喚起を促し、生徒の主体的な進路決定への意識的な取り組みの促進を図る」ことを目的としています。

今回は、県立保健福祉大学、東京工業大学、東京大学、横浜国立大学大学院、横浜市立大学、神奈川大学、慶應義塾大学、上智大学、中央大学、東海大学、横浜薬科大学、早稲田大学から先生方をお招きしました。生徒たちは12の講義から2つを選択し、聴講することにしましたので、それぞれの興味関心に応じて講座を選択できたと思います。他の学校でもこのような時間を設けていますが、本校の場合、本校の教員が大学に直接交渉して依頼をしています。

【芸術鑑賞会・今年は演劇『エディ』】

令和6年9月19日（木）の午後、前期課程生

は、劇団ingの演劇『エディ』を鑑賞しました。物語はガッツ石松や井岡弘樹を育てた伝説のボクシングトレーナー、エディ・タウンゼントの晩年にスポットを当て、井岡弘樹（井岡一翔の叔父さんです）のほかボクシングジムに所属する様々な若者の群像とエディとの交流を描いたものでした。涙あり、笑いありの演者の熱のこもった演技で、生徒は引き付けられたまま2時間の講演を観終えました。2時間をとっても短く感じた生徒が多かったのではないのでしょうか。



たしかに、劇中の「世界チャンピオンとそうでない人の差なんてちょっとだけの差なんだよ」とか「お前をクズだといったやつを今すぐここへ連れてきなさい!代わりに私がぶっ飛ばしてやる、おまえは誰よりもボクシングを一生懸命やってきたじゃないか」とか「僕、ボクシング以外何もできないけど1つだけ得意なことあるよ。それはしおれた花をしゃんとさせることよ」など、エディの人間愛あふれる熱い言葉は観客の心に残るものでした。

それとともに、私が感じたのは、演劇という芸術表現が持つ一体感です。「ボクサー小林」といえば、観た人誰もが思い出す強烈なキャラクター。アクの強い、存在自体がユーモラスな男が繰り広げるギャグやコントのようなやり取りを観るたび、生徒たちの大きな笑い声がホールに響き、ああこれはこれを演じている役者さんにも、心地よい振動のように伝わっているのだろうなと思いつつ、私はひらしんホールの中に独特な空気が出来上がっていくのを感じていました。観客と役者の対話、そこから生み出される独特な空気、役者と共有するだけでなく、中等前期生で共有した、あのときあの場所でしか味わえない空気をいつまでも忘れないでいてほしいと思っています。（澤村副校長）